2019 年度から音楽学部は新しくなります

Ｆグループの皆様、お元気でいらっしゃいますか。いつも音楽学部へお心をお寄せくださりありがとうございます。2019 年度からの音楽学部のことで重大なご報告とお願いです。音楽学部は 2019 年の 4 月より学部の改編を行うことが決まり、本年４月に文部科学省に変更の届出を提出しました。

学部改編の趣旨

現代の高校生たちが「音楽」の分野で求めている学びを実現させるため、2019 年度 4 月より「音楽学部　音楽芸術学科」の 1 学部 1 学科体制にします。定員 45 名の現・音楽芸術学科に演奏学科の 30 名分を加え、定員 75 名の新・音楽芸術学科にいたします。

新・音楽学部カリキュラムの特色

新・音楽学部の特色のポイントは 3 つあります。カリキュラムの詳細は入学案内（6 月配布開始）や大学 HP の特設サイト（http://www.ferris.ac.jp/music2019/）などをご参照ください。

１．現代社会に求められる多種多様な「音楽のちから」を様々な視点から学び、音楽の学びを人間力を磨く「ツール」として音楽系および一般企業への就職につなげる。そのために 3-4 年次に全員が専門ゼミに属し自らのニーズに応じた勉強をする。カリキュラムには多様なワークショップで学生が主体的に学べる「アクティブラーニング科目群」が用意されている。

２．グローバル社会で活躍できるよう、音楽学部でも英語による授業を開講する。総合大学の強みを生かし、語学や全学教養科目、他学部開講の科目等、音楽の単科大学にはない幅広い視野で、現代に必要なちからを学ぶことができる。

３．個人／グループ実技科目は「パフォーミング・アーツ科目」として別途有料科目となる。15・30・45 分の個人実技、1～3 コマでのグループ実技科目、さらに教職専門実技科目、テクノロジー系科目、と多彩な科目をそろえている。各自の実力に合わせて、初心者レベルから大学院進学などの専攻レベルまで、ニーズに従った勉強ができる。

入試の変更点

秋の推薦入試（公募型・専願）では、「小論文＋面接・プレゼンテーション」の試験を課します。演奏学科の募集停止に伴い、演奏実技課題や楽典・聴音はなくなります。しかし、得意なことや達成したことをアピールできるよう、「プレゼンテーション」という形で、面接時に演奏、口頭発表、作品提出などができるようになります。プレゼンテーションが含

まれる試験は秋の推薦入試のみですのでご注意ください。

１月以降の入試では、A 日程、センター前期、B 日程、３月期、センター後期と、下線で示した 2 つの試験が新たに加わります。音楽が好きで学びたい気持ちがあれば誰でも受験いただけます。

帰国生徒、社会人、留学生の方を対象にした入試も実施します。

就職・進学に関して

現音楽芸術学科の就職先を見ても、優良企業や金融関係に高い就職率で就職しています。新音楽芸術学科には実社会で役立つアクティブラーニング科目群や専門ゼミが多彩に用意されています。そのうえ、有料のパフォーミング・アーツ科目を活用すれば、演奏専門に劣らないばかりか、演奏の学部と同等またはより安い授業料で専門的に演奏を学べる環境がパフォーミング・アーツ科目にあります。大学院進学や音楽教育者への道も十分可能です。

まとめ

現代の多種多様なニーズを先取りし、実社会で求められる「主体的に考えるちから」とテクノロジー系の技術やコミュニケーション力の獲得を可能にする新・音楽学部です。他学部と共存し一般就職にも強いフェリスの資源を最大限利用しながら、実技もニーズに応じて十分に修得できるところに新・音楽学部の最大の特長があります。新しくなる音楽学部を周囲の方にお薦めいただければ幸甚です。

激動する社会のニーズに対応するため、学科の編成が歴史とともに変化していくことは致し方ありませんが、時代を切り拓く人材を育成するフェリスの女子教育の伝統は変わりません。学科の編成が変わりカリキュラムが変わりましても、今後もフェリスらしい学生を育ててまいります。

F グループの皆様からこれまで以上に温かいご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018 年 4 月 26 日

音楽学部長　立神粧子